

2024.2.13

「Universo Satellite /The Satellite Universe (サテリテの世界)」展 トリエンナーレでは、対話と関係、若者、学校とコミュニケーション、スケッチ、プロトタイプ、製品を通して、デザインの歴史の断面を物語る

ベッペ・フィネッシがキュレーションし、リカルド・ベッロ・ディアスがインスタレーションするこのプロジェクトは、単にオブジェを並べるのではなく、25年のサローネサテリテ/SaloneSatelliteの輝かしい歴史を再考するエキシビションです。更には、製造業界と、世界の様々な国や地域からデザインや暮らしに新しいアイデアをもたらした若き才能たちとの間の素晴らしく複雑な関係を表舞台に登場させます。

1998年の創設以来、サローネサテリテ/ SaloneSatelliteは卓越したクリエイティビティの場となっています。ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)と完全に一体化しながらも、独自の「世界(ユニバース)」としての地位を確立し、完全な自律性と強力で独創的なアイデンティティを発揮しています。ロー・フィエラミラノのホールで25周年を祝うと同時に、ミラノ・トリエンナーレでは、ベッペ・フィネッシのキュレーションによる「ユニヴェルソ・サテリテ(サテリテの世界)」展を開催します。

マルヴァ・グリフィン・ウィルシャーが考案し、真の“ユニバース”に変貌させた、今日もなお「不屈のレシピのすべての材料」が展示されます。このレシピは、強力なアイデアの絶対的な「中心」であり、同時に統一的かつ多面的で、人、対話、関係性、とりわけ若者(したがって学校も)、そして何より、ベンチャーに関心を寄せる起業家や企業との出会いを期待して彼らが発表した(そして大勢の聴衆に見せた)プロジェクトで構成されています。

サローネサテリテには、主に若手デザイナーたちがバラエティに富んだプロトタイプを持ち込み、家具の世界で何が起きているのかを明確に意識していることを示しているが、トリエンナーレでの展示は単なるオブジェの展示ではありません。というのも、このイベントの成果は、ランプ、椅子、花瓶といったプロジェクトそのものの成功にとどまらないからです。

- ・ サローネサテリテは、出会い、パートナーシップ、関係、対話を生み出してきました。
- ・ サローネサテリテは、新たな言語的方向性を生み出し、国際的なデザインの新たな言語形成に貢献しました。
- ・ 自分の会社や工房を立ち上げるよう勧められた人もいました。
- ・ 家具やプロダクトデザインを補完するような分野で活躍するクリエイターたちも、時を経て迎え入れてきました。
- ・ デザイナー育成における教育とは何かについて、独自の理解を示す数百の学校を受け入れてきました。



「Universo Satellite /The Satellite Universe (サテリテの世界)」展は、それゆえ、デザイン界に欠かすことのできないこの現実のさまざまな魂と側面を包含する展示プロジェクトであり、偉大なるヴンダーカンマー(博物館)のようなエキシビションです。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it